

駒澤大学3-0筑波大学

駒大サッカー大爆発！ 強豪・筑波大をよせつけず、圧勝

2回戦
ハイレイト

【右】この日MVP級の働きを見せた中田。監督も「パーフェクトだった」と絶賛するように蒸し暑いピッチで彼の運動量は、相手にとって驚異だった【下】初出場で初得点をあげた根本。新たなヒーローも誕生した



2003年7月9日 鶴見緑地球技場

駒澤大学3-0筑波大学

得点=59分：原一樹(1)〔赤嶺真吾(1) 62分：赤嶺真吾(1)〔中田洋介(1) 89分：根本真吾(1)

警告(C)／退場(S)
【筑】59分：来栖由基(C)、77分：遠山正悠(C)

駒澤大学

GK①牧野利昭(2)
DF④小林 亮(3)、⑤廣井友信(1)、⑤鈴木祐輔(3)、②桑原 靖(2)
MF⑥中後雅喜(3)〔86分⑬筑城和人(1)〕、⑩橋本早十(4)〔76分⑩巻 佑樹(1)〕、⑧中田洋介(4)、⑦田中 信成(4)
FW⑨原 一樹(1)〔73分②根本真吾(2)〕、⑨赤嶺真吾(2)

国際武道大学

GK①来栖由基(2)
DF⑥植松弘樹(3)、⑦秋葉陽一(2)、②高山純一(1)
MF④阿部翔平(2)、②岡田 隆(1)〔58分⑬佐々木惇(1)〕、⑤鎌田祥平(4)、②今泉和己(4)〔52分⑬鈴木達也(3)〕、⑧藤本淳吾(2)
FW⑨兵働昭弘(3)〔75分⑬遠山正悠(4)〕、⑩鈴木孝明(4)

【シュート】14:8〔枠内シュート〕7:4
【決定機】12:5〔GK〕13:14〔CK〕5:5
【PK】0:0〔直接FK〕15:15〔間接FK〕5:10
【OS】5:10〔主審〕 辺見康裕〔観衆〕約200人

※上記データは全て左側の数字が駒澤、枠内シュート、決定機、支配率は本誌記者によるもの

選手の自主ミーティングが生んだ好結果

初戦とはまったく別のチームがそこにいた。

総理大臣杯2回戦の相手は、宿敵・筑波大。昨年の関東リーグ戦では、壮絶な優勝争いを演じ、今期もここまで2度対戦し1勝1敗。2回戦には相応しくない好カードが早くも実現した。しかし結果は、駒大の完勝という意外なものとなった。前半2分、1回戦では出場機会なかった赤嶺がオーブンニングシュートを放つ。同8分、原のヘッドに反応した赤嶺が抜け出しゴールキー



パーとの一対一を迎えたが、シュートはキーパーにセーブされた。「チャンスをくれた監督の期待に応えたい」と燃える男が、積極的な動きでチームを牽引した。

駒大は全員が高い集中力でプレスをかけ続け、筑波大に自由を与えず試合を支配。前半にこそゴールは生まれなかつたが、十分に期待できる内容で後半を迎えた。

その後半、待望の先制点が生まれた。14分、中央混戦から赤嶺が原へ左足で蹴り込んだ。同18分には、中央の橋本から右サイドの中田へボールが渡り、ニアヘンタリング。それに飛び込んだ赤嶺が左足で逆サイドのゴールネットへ突き刺し、追加点。「中田さんにニアにきていと言われていた」(赤嶺)という、対話が生んだすばらしいゴールだった。

このゴールで完全に勢いに乗った駒大は、その後も原や中田が何度も筑波大ゴールに襲いかかる。そして最後まで攻撃の手を緩めない駒大はロスタイムに、初出場の根本がループシュートを決めてため押しした3点目。土曜日に新人戦を戦った根本は「入ってこれて無心で蹴りました」と満面の笑みで得点について試合後、語った。

今日はうちのサッカーが先にはまった結果です(小林)。「筑波はボールを回そうとしてたけど、うちのプレスにはまった」(中後)。試合後の選手たちの口どりは軽く、秋田監督も上機嫌。宿敵に完勝し、チームは最高のムードで準決勝を迎えることとなった。

(熊崎雅之)

駒澤大学1-0関西大学

本来の駒大サッカーには程遠く...

1回戦
ハイレイト

巻(右)のゴールで辛くも勝利した駒大。なんとか2回戦に進出した



「内容はよくない。でもトーナメントだから勝つことが大事」。秋田監督は試合後、安堵の表情を浮かべながらそう語った。

連覇を狙う総理大臣杯初戦の相手・関大は、名古屋グランパスエイトの特別指定選手である前田を擁する好チーム。ユニバーシアード代表で前田と共にプレーしている中田や中後は、事前に前田の特徴などをチームメイトに伝え、警戒してこの試合に臨んだ。

しかし試合後、選手たちの口から聞かれた言葉は「相手がどうこう」というよりも、自分たちがどうこうだと思われ。

試合は後半16分、スロインから最後はゴール前で待ち受けていた巻が、半身の体勢から右足で蹴り込み先制。その後は一人多い状況ゆえ、関大を攻め立てることが予想されたが、「相手に合わせてしまった」(中田)との言葉通り、追加点をあげることなく試合終了の時を迎えた。

駒大にとって今大会の組み合わせは例年以上に厳しいものだ。それは選手も十分に自覚しており、次戦は関東選手権三位決定戦で破れた筑波大。その先には要所にタレントをそろえる東学大と、関東勢との戦いが続く可能性もある。今日のような内容では、連覇は厳しいと言わざるをえない。

2003年7月7日 高槻市萩谷総合公園サッカー場

駒澤大学1-0関西大学

得点=61分：巻 祐樹

警告(C)／退場(S)

【駒】17分：巻 佑樹(1)(C)、36分：筑城和人(1)(C)、77分：中田洋介(1)(C)
【関】25分：東隆志(C)、42分：東隆志(GS)、89分：山戸直樹(C)

駒澤大学

GK①牧野利昭(2)
DF④小林 亮(3)、⑤鈴木祐輔(3)、②桑原 靖(2)、⑬筑城和人(1)
MF⑦田中 信成(4)、⑧中田洋介(4)、⑩橋本早十(4)〔65分③栗原健次(3)〕、⑥中後雅喜(3)
FW⑨原 一樹(1)〔84分⑩関 光博(3)〕、⑩巻 佑樹(1)

国際武道大学

GK④ 清野 拓(4)
DF②東 隆志(1)、④柳 大輔(3)、④西 孝幸(4)〔63分⑩山戸直樹(3)〕
MF⑥緒方卓也(4)、⑩安藤 淳(1)〔68分⑩木本敬介(1)〕、⑬生田隆司(3)、⑦古橋勇希(2)〔45分③中務雅之(3)〕、②八柄堅一(4)
FW⑩森本圭太(4)、⑩前田雅文(3)

【シュート】16:11〔枠内シュート〕3:3
【決定機】9:4〔GK〕10:21〔CK〕4:5
【PK】0:0〔直接FK〕18:22〔間接FK〕5:0
【OS】5:0〔主審〕金子聡一郎〔観衆〕約200人

※上記データは全て左側の数字が駒澤、枠内シュート、決定機、支配率は本誌記者によるもの